

2024 年度 重点プロジェクト「東三河森林ルネッサンスプロジェクト～森林資源の循環利用による東三河の振興～」の取組の方向性について（案）

1 課題と方向性

地域	現状と課題	取組の方向性	事業方針	事業イメージ
山村部（上流）	<ul style="list-style-type: none"> 企業等における森林を活用したカーボンニュートラルやJ-クレジットへの関心の高まり 森林所有者が森林の経営管理を実行できない場合に、市町村へ経営管理を委託する等の森林経営管理制度の実施（2019年度～） 境界が不明瞭な森林が多い 木材価格の低下等により伐採後の再造林・育林コストが捻出できないことから主伐再造林が進んでいない 森林の高齢級化により利用期を迎えており、CO₂吸収量が低下している 自然災害等によって被害を受けた箇所の森林の再生が進んでいない 林業従事者の高齢化 林業従事者の減少 	<p><u>新たな森林施業の探求</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル社会の実現につながる森林整備の推進 労働負荷軽減に向けたスマート林業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラル社会の実現につながる主伐再造林の推進 <p>カーボンニュートラル社会の実現につながる森林の若返りを図るため、主伐再造林の推進を図る</p> <p>併せて労働負荷軽減に向け、作業の効率化を図るため、作業に対するドローンの活用について、有効性を検証する</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 担い手の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 林業就業イベント等の開催 <p>林業就業の裾野拡大を図るイベント等の実施</p>
都市部（下流）	<ul style="list-style-type: none"> 東三河地域の木材関係企業は小規模企業が多いため企業間交流の場への参加機会が少なく、ニーズにあわせた製品開発が行いにくい オフィス等の非住宅建築物は、木造・木質化を進めているが、事例を体感する場が少ない 内装材や地域産木材の利用に対する消費者の関心が低い 	<p><u>新たな木材利用の促進</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流の場の創出による企業間連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 木材関係企業の交流の場の創出 <p>木材関係企業の交流イベント等の実施</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 消費者向け木材利用の促進に向けた体感の場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 木材利用を促進する展示会等の開催 <p>木造・木質化を体感できる展示会等の開催により、消費者向け啓発を図る</p>
全域（上下流）	<ul style="list-style-type: none"> 新たな雇用と収入を生み出す森林を活用したサービス産業への期待の高まり 山村地域に対する都市地域住民の関心を高め、上下流域が一体となった取組が必要 田口高校林業科の入学希望者の増加等を図ることが必要 	<p><u>森林を活用した新たな交流の促進</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 森林を活用したサービス産業の創出 上下流域交流の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 森林を活用したサービス産業の創出 <p>森林空間を活用した新たなサービス産業により、山主への利益還元や下流都市住民の森林来訪機会の創出を図る</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 都市地域住民の関心や田口高校の知名度を高めるための啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 広域連携による広報啓発等 <p>市町村や田口高校など広域的な連携による広報啓発を図る</p>

2 イメージ図

取組の方向性に基づく各事業が相乗効果を生み出すことで、新たな森林資源の循環利用による東三河の振興（東三河森林ルネッサンス）を図る。



3 今後のスケジュール

2023年7～8月	2024年2～3月	2024年4月～
<ul style="list-style-type: none"> 第1回ビジョン協議会事業計画素案 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回ビジョン協議会事業計画最終案 	<p>事業の実施</p>

1 大都市企業の活動支援

(1) 大都市企業と東三河企業とのマッチングに向けた取組状況

①大都市企業側へのアプローチ状況

東三河地域に不足している業種（情報、デザイン、マーケティング等）などから企業を11社選定し、マッチングに向け調整中。

②東三河企業側へのアプローチ状況

①で選定した大都市企業とマッチングできそうな東三河企業を15社選定し、マッチングに向け調整中。

(2) 大都市企業と東三河企業とのマッチングセミナーの開催（東三河懇話会との共催）

開催	開催日	内容	参加者
第1回	2023年2月20日（月）	デザイン経営を基軸にしたマッチング事例 大都市企業（㈱ロフトワーク ^{※1} ）×東三河企業 （糀屋三左衛門）	32名
第2回	2023年2月27日（月）	「農・食・料理」を基軸にしたマッチング事例 大都市企業（㈱シグマクシス ^{※2} ）×東三河企業 （中部ガス不動産株式会社等）	48名

※1 社会に新しい価値を生み出すために、状況を創造的に捉え、デザインの力で解決するクリエイティブ・カンパニー（本社：東京都渋谷区）

※2 企業の「3つの変革」実現を目指し、多様な能力を組み合わせたコンサルティング・サービスを提供する企業（本社：東京都港区）

2 関係人口の創出、移住・定住の促進

(1) 関係人口の創出

①関係人口創出の取組

・先進事例調査等を基に、「歴史をテーマとした東三河関係人口創出検討会議」を設置（開催：2/14）し、東三河8市町村のボランティア募集情報を共有するとともに相互に募集する仕組みの創設、地域外からの参加者募集等を行う。

②東三河企業への就職促進

・東三河企業への就職を促進するため、東三河県庁と東三河広域経済連合会により2022年度に「東三河企業への就職促進検討会議」を設置。（開催：第1回9/7、第2回11/21）
・東三河企業の情報を届けるため、高校を通じ生徒へ情報登録依頼チラシを配布。（12校/30校（特支・海陽を含む）、約2,700部配布）

③重点PT構成団体による2022年度における新たな取組等

・豊橋の魅力を発掘するアイデアコンテスト「Discover Toyohashi」の開催（豊橋市）
・市の魅力を発信する「豊川って、豊かだ」キャンペーンの展開（豊川市）
・「ふるさとワーキングホリデー」（一定期間働きながら暮らしを体験）の開催（蒲郡市）
・もっくる新城への新東名高速バス停留所の設置や年末年始に市へ帰省する方を対象に特産品を贈る「帰省促進事業」の際にふるさと納税や高速バスのPRチラシを同封（新城市）

- ・全国屈指の農業産出額を誇る市の特産品等を販売する「渥美半島たはらマルシェ」の首都圏での実施や「伊良湖温泉」を活用したイベントの開催（田原市）
- ・「オリエンテーリングのまち したら」を目指した大会の開催や魅力発信（設楽町）など

(2) 移住・定住に関するアンケート

- ・調査対象：東京圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）の20～40歳代 回答数：1,254件。
 - ・主な調査内容
 - ・「東三河地域の認知度」^{※3}は、13.7%。若い人ほど認知度が高い。（20代19.5%、30代15%、40代6.7%）
 - ・「移住先に関する情報収集先」は、自治体のポータルサイトが63.4%と最も多い。
 - ・「移住や住んでみたい地域の検討に役立つ情報」は、住まいが67.4%で最も多く、仕事・就労が65.7%で次に多い。
- ^{※3} 東三河地域について「聞いたことがあり、よく知っている」「聞いたことがあり、まあ知っている」人の割合

(3) 東京圏移住イベント

ア ふるさと回帰フェア2022

開催日：2022年9月25日（日）

会場：東京国際フォーラム（349団体出展）

内容：愛知県と市町村が共同して東三河（初出展）と山村・離島のブースを出展

相談件数：35件



<東三河ブースの様子>

イ ふるさと暮らしセミナー

会場：ふるさと回帰支援センターセミナールーム及びオンラインの併用により実施

開催	日時	内容	参加者
第1回	2022年11月27日（日）	街で暮らすをテーマに先輩移住者の話や個別の移住相談を実施（豊橋市、豊川市）	18名
第2回	2022年12月4日（日）	海で暮らすをテーマに先輩移住者の話や個別の移住相談を実施（蒲郡市、田原市）	13名
第3回	2023年2月4日（土）	仕事（求人、起業）をテーマに東三河の求人情報の現状や企業についての話や個別の移住相談を実施	12名
第4回	2023年2月5日（日）	仕事（就農）をテーマに東三河での農業や就農等についての話や個別の移住相談を実施	11名
地域振興 室事業 (会場のみ)	2022年10月8日（土）	「見たことない！あいちの山里&離島」の魅力についてトークセッション等を実施（東三河北部4市町村等）	12名
	2022年10月22日（土）	あいちの山里・離島で「体験したい！」をテーマにトークセッション等を実施（東三河北部4市町村等）	17名
	2023年1月28日（土）	あいちの山里・離島で「暮らしたい！」をテーマにトークセッション、移住相談会等を実施（東三河北部4市町村等）	5名

(4) 移住ポータルサイト

- ・東三河の移住情報をワンストップで検索でき、各団体への窓口となる移住ポータルサイトを新たに構築。
- ・移住・定住に関するアンケートや移住セミナー参加者の意見等を反映し 2023 年 3 月 20 日に公開。

<移住ポータルサイトトップページ写真>



団体等	新たな取組等
設楽町	県内初となる、複数の小規模事業者で人材派遣業を運営する、特定地域づくり事業協同組合「したらワークス協同組合」を設立。東三河起業家コミュニティへ参加し、人と人の繋がり深め、課題解決に向けた取組を実施。(以上 2022 年度)
東栄町	これまでの移住定住施策を、移住者のための施策ではなく、このまちに暮らし続けるための施策としてパッケージ化し、まちの進む方向を分かりやすく伝える。「暮らしのカラフルパッケージ」
豊根村	とよねツアーズとして、診療所・保育園・小中学校・村営住宅など村の主要な場所や暮らしぶりを案内。
(株)タスキ	東三河の求人・企業・生活情報サイトの運営。

3 進捗管理指標 (2022 年度~2024 年度)

指標	目標 (2024 年度末)	現状(速報値)
ふるさと回帰支援センター(東京)の移住希望地ランキング(愛知県)	20 位以内	21 位以下
コーディネート機能による、東三河の各地域への訪問回数(オンライン含む)	250 回 (3か年累計)	75 回
大都市の移住者受入窓口と東三河の市町村等との情報交換会の開催回数	6回 (3か年累計)	2回

※ふるさと回帰支援センターの移住希望地ランキングについては、21 位以下非公表。

(5) 重点 PT 構成団体による移住希望者に対する相談体制の強化等

団体等	新たな取組等
東三河	豊川市、蒲郡市がふるさと回帰支援センターの会員へ加入し、東三河の全市町村がふるさと回帰支援センターの相談対象地域となる。(2022 年度)
豊橋市	公式 Instagram「クラストコ」(フォロワー1 万人超)での魅力発信や住みよさを PR する動画「豊住動画」「トヨハシサラダ」の配信に加え、Google 広告・「YouTube TrueView」を活用したターゲティング配信を実施。移住・定住を官民一体となって促進するため、一般社団法人移住者人材バンクと連携協定を締結。(以上 2022 年度) 移住・定住ページ「さあ、豊住しよう」の運用。
豊川市	組織機構改革にて、「企画部元気などよかわ発信課」を新設し、移住・定住・交流を促進する施策の情報の集約や一元的な情報発信、相談・問い合わせなどへワンストップ対応を推進。(2023 年度)
蒲郡市	先輩移住者のリアルな蒲郡暮らしがわかる 1 日旅をしてもらう「移住体験ツアー」を実施。(2022 年度) 一般社団法人 移住・交流推進機構 (JOIN) が開催する「移住交流地域おこしフェア」への出展。
新城市	移住定住専門窓口の設置、2023 年 2 月に移住定住ポータルサイト及び移住定住公式 Instagram「しんしろライフ」を開設。(以上 2022 年度)
田原市	たはら暮らし定住・移住サポーターの公式 Instagram アカウントを開設し、定住・移住先としての魅力や、定住・移住に関する情報を発信。(2022 年度)